

カトリック 仙台教区報

2014年7月6日 No.218
 発行
 カトリック仙台司教区
 〒980-0014
 仙台市青葉区本町 1-2-12
 Tel(022)222-7371 Fax(022)222-7378
 発行責任 広報委員会
 URL <http://sendai.catholic.jp/>

聖霊を受け、導きに身をゆだねる

〈聖霊降臨祭ミサ説教〉

司教 マルチノ 平賀 徹夫

6月8日、カテドラルでは、平賀司教の主司式で聖霊降臨祭のミサが行われた。ミサは、第6地区の元寺小路教会、一本杉教会、豊屋丁教会、八木山教会、4教会の合同典礼として行われ、約500人が参加し、ミサの中で13人が堅信の秘跡を受けた。写真。

今日は聖霊降臨の大祭日です。最後の晩さんのときイエス様は弟子たちに、「父のもとに行ったら、わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は真理の霊であり、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」と約束されました。そして、使徒言行録によれば、「受難・死去のうちに復活して弟子たちにご自身を現しになったときには、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」との使命を与えられました。



今日は聖霊に満たされ、聖霊が語らせるままに、いろいろな国から集まった大勢の人々みんながわかる言葉で神の偉大な業を語った」とありました。聖霊の働き、聖霊の力を受けたので、弟子たちは「神の偉大な業を語った」のです。

第二朗読の最初の言葉は、「聖霊にやらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」と。私たちは「イエスは主である」と宣言しますから、これは聖霊が私たちの内に働いてくださっている印です。ところで、「キリスト者」とはどのような人のことを言うのでしょうか。聖霊、父から遣わされる愛の霊・真理の霊を受けていることを意

識し、わたしたちの内に働いてくださるその促し・導きを感じ取ってそれに信頼して従う生き方を選び取っている人なのではないでしょうか。ヨハネ福音書では、「聖霊を受けなさい」という聖霊を与えてくださる確かな言葉と、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」という派遣の言葉とが響いていました。

典礼聖歌集の中に「キリストのように考え」という聖歌があります。歌ったことがあると思いますが、「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのようにおこなひ、キリストのように愛そう」というあの聖歌です。でも、わたしたちはどのようしたら、「キリストのように考え、話し、行い、愛する」とができるのでしょうか。「キリストのように」とは人間の力だけで絶対に行えることではありません。それは、わたしたち信者が、父と子から発出する神の愛の霊、助け手である聖霊、を受け、その働き・導きに自分をゆだねるときです。聖霊がわたしたちにきて、内から促してください、わたしたちがそれに応える生き方を選び取っていきましょうと、地の果てに至るまで、まさに「キリストの証人」となることができるの

生命の泉

4月27日バチカンでヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世の二人の教皇様の列聖式が行われた。ヨハネ23世は第2バチカン公会議を始め、教会の現代化に向けて舵を切った功績は大きい。この方向に強力な指導性を発揮したのはヨハネ・パウロ2世だった。ヨハネ・パウロ2世は没後9年で聖人位に上げられた。彼は1920年ポーランド・クラクフ近郊で生まれた。8歳でご母堂を失い、11歳でご令兄を失い、以後ご尊父に育てられた。18歳の時大学に入ったが翌年ナチス軍の侵攻で大学は閉鎖、その翌年父上が他界して身寄りをすべてうしなつた。生活のためドイツ連行を避けるために化学工場の石切り場で働いた。23歳でクラクフの非合法下の神学校に入學、26歳で司祭になった。司祭になった彼は小教区の助任をしながら勉学を続け2年後に学位をえた。38歳の時ヒトラーによって司教に叙せられ、62年から始まった第2バチカン公会議で現代世界憲章の編集に携わった。44歳の時クラクフの大司教と枢機卿に、58歳で教皇着座。在位は25年6ヶ月だった。彼の生涯は第二次世界大戦とそれに続く東西冷戦時代で、祖国はナチスの侵攻、その後ソ連の支配を受け属国として屈辱に甘んじた。彼の生きた世界は私たちと同じで大量殺戮と冷戦時代に世界は二分されて再度の世界戦争の恐怖に怯えた。東欧共産圏崩壊のきっかけはポーランドの労働組合「連帯」が大きな影響力を与えたことはよく知られている。教皇は教会の永い歴史の中で教会の子らが犯した様々な罪を認め公式に謝罪した。また世界中を飛び歩き、赦しと和解による平和のために尽力した。恵まれなかつた私生活、虐げられた祖国、そして民族の自由と豊かさを求めて混乱の続く世界に明るい希望と平和を説く真の「マリアの子」だった。(守)

この落差をどうしたら

司教 平賀徹夫

去る6月6日、午後、カトリック中央協議会から電子メールが届きました。駐日バチカン大使から司教協議会会長・岡田大司教宛の至急のお知らせの転送でした。大意、「聖地巡礼中の教皇フランシスコが5月25日、パレスチナのアッバス大統領とイスラエルのペレス大統領に対して『平和のたまものを神に強く願い求めて共に祈る集い』開催を呼びかけた。それは6月8日バチカンで開かれる。教皇は、すべての信者がその瞬間を共にすることを強く望んでおられるので、(日本でも)すべての信者がこの祈りに霊的に加わるよう願う」というもの。岡田大司教からは「6月8日の聖霊降臨のミサ中、共同祈願などでイスラエル・パレスチナおよび中東の平和のために祈るよう、教区内で広く伝えてほしい」との添え状がありました。

教区本部からファックスで各小教区へ流しましたから、多くの教会で祈りを共にしていただけたかと思えます。全世界で信者が心を一つにし、紛争の危機的な状況にある地域のために、神からの平和を願って共に祈ることの大切さを思いました。これに関する記事は6月1日、8日、15日付のカトリック新聞に出ていますから、大勢の方が読まれたでしょう。長い年月、対立し続けてきたイスラエルとパレスチナのトップの人物に共に祈ることを呼びかけ、その集いを主催された教皇フランシスコの思いと働きはまさに「平和を実現する人」の働きそのものです。

ひるがえってわが日本の政治の現状は、「集団的自衛権」とその「行使」の問題で沸騰しています。人間の生命の安全・保護を考えるのは正しいが、敵対国を想定して彼我を峻別し、抑止力と称して装備する武器によって平和を保障しようとする主張と教皇フランシスコの精神とはなんとかけ離れていることか、と思えます。日本国憲法の前文、「日本国民は、恒久の平和を念願し、…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した…われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。…」の理想は、現実とは合わないから改定しようということが良いのでしょうか。

今日はこのあと堅信式があります。今日この秘跡を受ける方は13人です。この方々はよく準備をしてこられたようで、何人かの方はレポートを書き、それがわたしのところに届けられました。あとで読ませていただきますが、準備の勉強ではこの秘跡によって聖霊の7つのたまものが授けられることを習ったでしょう。聖霊のたまものをいただき、力を受けて、「キリストの証人」として派遣されていくのです。『ガラテヤの信徒への手紙』5章16



節に、「霊の導きに從つて歩みなさい」という勧めがあります。いつも、霊の導きに從つて歩むことを心掛けましょう。7つのたまものほかに、『ガラテヤの信徒への手紙』5章22節に、「霊の結ぶ実」が挙げられています。「愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」と9

秘跡を受ける人は、聖霊の導きに從つて「平和の人」となるのです。マタイ福音書5章9節に「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」とあります。聖霊のたまものを受けた人は、神の子として平和をもたらす働きに進んで行く者となります。特に今日、世界のために平和の恵みを強く願ってくれるように、と求められています。フランシスコ教皇様は5月24日から26日、聖地巡礼に行かれましたが、聖地で、パレスチナのアッバス大統領とイスラエルのペレス大統領をバチカンに招待し、両国間の和平のために祈る集いを開くことを提唱されました。その祈りの集

いが6月8日、今日の午後なので、全世界の信者に、この集まりの意向に固く心を合わせて祈ってくださいとのこと。今日の共同祈願にもその意向が加えられます。わたしたちは、聖霊の力を受けて、平和の使徒になりたいと思えます。



田茂木(巡回)教会閉鎖

取り壊しを待つ教会は、窓ガラスがなくなり、聖堂内部は風雨に荒らされるままの状態でした。私たち信徒が、信仰を伝えていかなければ、教会がこのように朽ちて消滅していくのだということを痛感しました。(編集部)

司教日程 7月・8月

- 7・3 ⑥ 社会司教委員会
- 7 ⑦ 使徒職の協力者会
- 8・5・9 東京教会管区会議
- 13 ⑩ カトリック宮城県大会
- 14 ⑪ 部落差別人権委・事務局会議
- 15 ⑫ 司祭評・役、教区司祭団・役
- 17 ⑬ 人権を考える委員会
- 19 ⑭ 宣教司牧評・役員会
- 20 ⑮ 21部落差別人権委・全国会議
- 24 ⑯ 第29回仙台教区サポート会議
- 25 ⑰ 日本カトリック神学院・東京キャンパス
- 26 ⑱ 第8地区会議
- 29 ⑲ 青森県カトリック連研修会
- 8・5・6 平和行事・広島
- 10 ⑳ 平和旬間ミサ
- 12 ㉑ 司祭評・定例会 司祭団・役
- 14 ㉒ 韓国124殉教者列福式参列
- 20 ㉓ 福島県カトリック幼連研修会
- 21 ㉔ 学法理事會
- 23 ㉕ 宣教司牧評・役員会
- 25 ㉖ 仙台教区司祭の集い

祝 野田町教会献堂50周年

野田町教会福島市・第7地区は、今年で献堂50周年を迎えた。同教会では、創立50周年記念委員会を設置し、記念行事の計画や、記念誌の編纂に取り組んだ。

6月22日(日)、平賀司教司式による記念ミサと祝賀会を開催した。

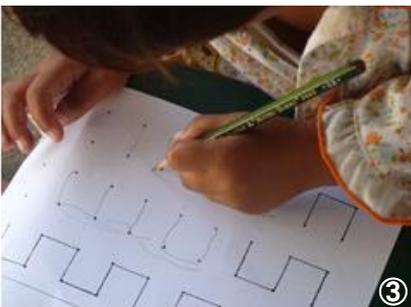


創立当初の教会の周りは田園風景が広がる鄙びたものでした。現在は周囲の環境の変化に伴い、すっかり市街地化しています。50年という時の流れに思いを致すとき、隔世の念を禁じ得ません。この50年の間に様々な人たちが

野田町教会の歩み (沿革)

- 1963.12.24 モリソン神父によりカトリック野田町教会最初のミサが行われた。
- 1964. 4.26 小林有方司教他 12名の司祭団・参列者を迎え献堂式が行われ、聖堂は「聖母マリアの汚れなき御心」にささげられた。
- 1970. 3.29 教会新聞「ぱんだね」創刊号を発行。
- 1976.10.22 渡利墓地委員会の総会を開催。
- 1992. ラトゥール神父が主任司祭として就任。
- 1993.12.17 モリソン神父が帰天。(83歳)
- 1994. ユリアン神父が主任司祭として就任。
- 1996.11.30 トマス神父が主任司祭として就任。
- 1997. 8.30 復活祭記念誌(トマス神父着任記念号)「エマウス」を発行。
- 2000. 6. 集会祭儀を初めて実施。
- 2008. 2. 1 教会玄関にステンドグラスを設置。
- 2011. 4 東日本大震災被害者支援活動を開始。
- 2012. 5.27 晴佐久神父によるマリア・ヨセフ御像の寄贈・祝別式が行われた。
- 2014. 3.27 仙台教区第7地区第1回打ち合わせ会に参加。

カンボジア・ステンミエンチャイ地区での活動報告④ 元寺小路教会 小野 武



今回は、「子どもたちの勉強の様子」について紹介させていただきます。子どもたちと勉強をともし、2011年7月6日、いよいよステンミエンチャイ地区の子どもたちへの教育支援活動の開始のときがやってきました。私たちの教育支援は、日本で言う幼稚園の位置づけになります。年齢的には、3歳から12歳くらいの子どもが対象となります。6歳から小学校へ行くのですが、親が教育

1. 将来国を支える人材を養成
 2. 潜在能力を十分に発達させる
 3. 9年間の基礎教育を適切に受けられるように能力を養う
- 目的は

そのうち前に出て、歌を発表する時間では、物怖じせず堂々と歌い、末は歌手かと思わせるような場面もあります。この家に私が近づくと見つけた子どもたちが「ター」(お爺ちゃん)と一斉に呼んでくれます。ちなみに、現地スタッフからは「タケシ」JLMの仲間からは、「タケちゃん」と呼ばれていました。

野田町教会と出会い、野田町教会を離れ、あるいは今もどまっておられます。この方々がその時々で野田町教会と共に生きたことは不思議な摂理に思われます。

野田町教会が良き伝統を踏まえ、さらなる成長を上げていくことを願ってやみません。(佐々木善英)

熱心でないのでズルズル年齢が過ぎてしまうことが多いので、その子どもたちも対象にしています。それでも、小学校入学のときの学力試験で2年生へ入学することもありました。

「小さい・小さい子供の家」の子どもたちの様子

子どもたちは、能力別に三つの家Ⅱ写真①Ⅱに分けています。日本の幼稚園の年少・年中・年長と同様に「小さい・小さい子供の家」「小さい子供の家」「大きい子供の家」に分けています。教室は、屋根と柱があるだけで仕切りがないので子どもたちの声や授業の動きが邪魔にならないように、それぞれ独立した家を少し離れた場所に建てています。貧しく見えますが、熱い国なので、風通しが良くとても快適なのです。

ちなみにカンボジアでの幼稚園(3才〜6才未満)の国家的教育目的は

- Ⅱ写真②Ⅱ・歌・お絵書き・絵本を読んでもらって慣れていきます。
- Ⅱ写真③Ⅱ・バラバラに行動していた子どもたちが、半年も経つと段々と先生の言うことを聞くようになっていきます。

この家は、集団生活に慣れることと、学校が楽しいところと感じてもらうことに重点をおいています。初めて学校にお母さんやおばあさんと来た子どもは、何日か別れのつらさで泣き叫びます。とてもかわいそうに感じてしまうひと時ですが、子どもの成長のためには避けて通ることのできないことです。子どもたちは、ままたこと

復活祭に洗礼を授けらる...

復活祭には各教会で「入信の秘跡」が授けられた。この日洗礼を受けた方々に喜びの声を寄せていただいた。「神の子」として新たな人生を踏み出した方々には、入信までの様々な人生ドラマと、確かな神の導きが読み取れる。

マリヤ・クララ

伊澤 久美子 (女・60代)

元寺小路教会

「洗礼を受けて」

この度の受洗に際しましては神父様はじめ、支えてくださった多くの教会関係の方々、深く御礼と感謝を申し上げます。

受洗おめでとうございます

お金や地位や名誉ばかり追い求める物質主義的な今の時代の中に生きながら、愛や友情、信頼や信仰を求め、見えない価値を大切にしながら生きていってほしいと願ってきました。人生の様々な問題を現実的に対処しながらも疲れ果て、2年前の秋に教会の日曜ミサに参加しました。聖書朗読や神父様のお話に心打たれ、賛美歌に清められる自分がい

ました。入門講座で学び始め、こやかに接して励ましてくださるシスターたちや先輩方や、不思議な縁の代母さんとの出逢いがありました。夏に脳梗塞で倒れ、危篤に

陥った母のために祈ってください

シスターを通して、死の際には、祈りを共にささげてくださいる方々がそばにいてくださる心強さの中で主に祈ることの意味を心に刻みました。

「受洗も召命です。自分で決めたようにいて、神さまがそう仕向けてくださっている。神がそう望んだからこそ受洗に導かれる」との晴佐

久神父様の言葉や「受洗は恵みです。努力ではありません。神様からの一方的な恵みです」とのシスターの言葉に強められました。これからは、洗礼によって新しくいただいた命を喜んで、クララの名の通り明るく生きるものになりたいと願っております。



ミカエル

鈴木隆 (男・60代)

八木山教会

「大好きなミカエル」

大天使聖ミカエルの祈りを通して若い頃からカトリック教会には関心があったので、2、3の教会に気ままに顔を出してはいたが仕事から足が遠のいていった。やがて時は流れ風呂上りに廊下へへナへナとくずれ落ちた。その瞬間から私の人生の忘れ物を探しに行こうと決心し、翌日八木山教会の門をたたいた。(2013年4月28日(日))皆様が温かく迎え入れてくれたやがて教会にての聖書勉強会、元寺小路教会でのキリスト教の輪郭等の勉強会を通して復活徹夜祭に受洗という幸運の恵みをいただいた。霊名は大好きなミカエル。大天使聖ミカエルを通して感謝の気持ち

「光の名をいただきたい」
それまではまさか思ってもみなかったほどのたくさんの方々から

松野歩 (女・20代)
元寺小路教会

「大天使聖ミカエル、戦いにおいて我らを守り悪魔の凶悪なるはかり事に勝たしめたまえ。アーメン。」

洗礼と初聖体のあたたかいお祝いの言葉をいただきました。皆様と兄弟姉妹になることができたことを心より嬉しく思い、同時に神のみわざの素晴らしさを改めて感じています。神様と出会う素敵なきつけかけをくださった大学に、先生であるシスターに、親切にしてくださいました。2013年6月の終わり頃から神父様と私たち夫婦と毎週1回聖書の勉強を始め、納得できることが多々あり、受洗し神のお恵みを受けたい、己の心を神に受けとめてほしいと思い、この日の洗礼式に到りました。今日まで見守ってくださいました教会の皆さまに感謝申し上げます。

ヨセフ・フランシスコ
志賀 典子 (50代)
志賀 秀輝 (男・50代)

いわき教会

「洗礼を受けるに到るまで」

4月19日(日)に夫である志賀秀輝(ヨセフ・フランシスコ)と共に受洗しました。

「出会い」

私は今まで10年に一度、自分の人生の転機になる人と出会うことができました。その全ての場合に共通するのは、何気ない一言だけで多くがわかるという不思議な現象です。そしてチエスワフ神父様と初めてお話をしたときに、10年ぶりの喜びを感じたのであります。私は今年55歳になります。

もしかすると今回が生涯最後の出会いになるかもしれませんが、神父様を通して主への信仰へ進む行くことになったのですから、これ以上の素晴らしい出会いはないと思います。

マリア・ヨハンナ・デ・アサ
佐藤 美香子 (女・50代)

「洗礼を受けた動機」

西仙台教会

洗礼を受けた動機は、東日本大震災を経験したからです。

いっどんな状況の中で自分の命が終わりを告げるか分からない。そう思った時、強く「洗礼を受けたい」と思いました。

私は、高校3年間をカトリックの学校で過ごし、学校生活の中で聖書や聖歌

に触れ、卒業してからも自然に神に祈り、神に感謝する気持ちを持ち続けていたように思います。

洗礼式を終え、神と共にいることを強く感じます。



聖ベルナデッタのように、弱々しいながらも(当時、私も病弱だったので)信心深く、強い人になり

これからも、神の言葉に心を寄せ、感謝の気持ちを忘れずに歩んで行きたいと思えます。

佐藤 はるみ (女・50代)
西仙台教会

「私の霊名」
私を受洗まで導いて下さったのは、もちろん神様ですが、その出会いのきっかけはカトリックの高校に入学したことです。しかし、うちは信徒の家庭ではなかったの、毎日の朝

礼でのお祈りや聖歌を歌うことは、強制されたものであり、宗教の授業は単に国語や英語の科目と変わらない、義務的に受けなければならぬ教科だと思っていました。ところが、ある日の宗教の授業で、聖ベルナデッタのスライドを鑑賞した時、雷に打たれたような衝撃を受け、あのご遺体の美しい姿が脳裏に焼き付いて頭から離れなくなりました。それから

教会に通うようになり、ひとり一人が異質であること、つまり人間の本当の弱さや醜さを容認する寛容さ、そして、決して妄信的に従うのではなく、常に自己に内在化するイエス様に問いかけ、第三者的に冷静に自分をみつめ直す謙虚で清楚な生き方に憧憬しておりました。

わたしには欠けている資質ですが、洗礼を受けて即、身に付くものではなかったようです。洗礼までお導き下さいました全ての皆様に感謝いたします。そして、今後ともどうかよろしくご指導のほど、心からお願ひ申し上げます。私は洗礼を受けた感動を生涯決して忘れないことと思えます。

ヨセフ

千葉 正信 (男・60代)
築館教会

「心の成長」
動機としては、いつも心の成長がはかられたし、乗り越えて来たことに感謝して洗礼を決意しました。今までは、宗教の存在感がなく、生活にかけ離れていると思っていたところ、心の成長が自分の行ないそのものが全て成長していくことを実感できたことが第一番でした。今後は、身近な教会で人の役に立つ奉仕をしたいと思っています。

池田 千里 (男・70代)
元寺小路教会

「私の洗礼名」
みちのく仙台に万葉(まんた)の桜がそよぐ春の日、私は入門講座の仲間をはじめ、多くのみなさんとともに、祝福されて神の子の兄弟とさせていただくことができました。私の洗礼名は、誕生日が十二使徒の一人、聖アンデレ(ギリシヤ語やドイツ語ではアンドレアス)の祝日なので、まったく迷うことなく

「牛にひかれて善光寺参り」
「人は罪人である」子供心に「私は何も悪いことをしていないよ」と反発を感じたのがキリスト教に対するはじめての印象でした。それ以来「神仏は敬えどもたよらず」を信条として生きてきた気がします。退職後、家族の事情で仙台を離れていましたが、それも一段落したので昨年帰って来ました。以前から聖書研究会に参加していた妻が、入門講座に出るとのこと、私もつられてついて行きました。長谷川先生の講座です。懇切丁寧な解説で「罪人」のトラウマから解放され、わが身の不徳、無知を反省させられた毎日でした。霊名も講義の中で出会いました。これからの考え、行いが主のみ旨にそえるよう心していきたいと願っています。

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」
志家教会

林 浩子 (女・40代)

マキシミリアナ

西仙台教会

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

ヨセフを選んだ理由は、ドイツでパイロット試験を受けるに当たり、パイロットの恩師であるヨセフ・パウワーの言葉がいつも心にのこっていたことがありヨセフの霊名にいたしました。

自動車事故の後、築館教会をたずね、横島神父さんの勉強会と、土井神父さんの講習などを経て、自分が常に成長するために入信を決意しました。大変感謝しています。どこでも人は成長することが出来るし、困難を乗り越えられるといつも信じ、生きています。ここ一年は、ヨーロッパの所属航空会社に時間をとられてしまいましたが、男らしく、聖徒として奉仕活動に励んで生きます。よろしくお願ひいたします。

池田 千里 (男・70代)
元寺小路教会

「私の洗礼名」
みちのく仙台に万葉(まんた)の桜がそよぐ春の日、私は入門講座の仲間をはじめ、多くのみなさんとともに、祝福されて神の子の兄弟とさせていただくことができました。私の洗礼名は、誕生日が十二使徒の一人、聖アンデレ(ギリシヤ語やドイツ語ではアンドレアス)の祝日なので、まったく迷うことなく

「牛にひかれて善光寺参り」
「人は罪人である」子供心に「私は何も悪いことをしていないよ」と反発を感じたのがキリスト教に対するはじめての印象でした。それ以来「神仏は敬えどもたよらず」を信条として生きてきた気がします。退職後、家族の事情で仙台を離れていましたが、それも一段落したので昨年帰って来ました。以前から聖書研究会に参加していた妻が、入門講座に出るとのこと、私もつられてついて行きました。長谷川先生の講座です。懇切丁寧な解説で「罪人」のトラウマから解放され、わが身の不徳、無知を反省させられた毎日でした。霊名も講義の中で出会いました。これからの考え、行いが主のみ旨にそえるよう心していきたいと願っています。

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

ヨセフを選んだ理由は、ドイツでパイロット試験を受けるに当たり、パイロットの恩師であるヨセフ・パウワーの言葉がいつも心にのこっていたことがありヨセフの霊名にいたしました。

自動車事故の後、築館教会をたずね、横島神父さんの勉強会と、土井神父さんの講習などを経て、自分が常に成長するために入信を決意しました。大変感謝しています。どこでも人は成長することが出来るし、困難を乗り越えられるといつも信じ、生きています。ここ一年は、ヨーロッパの所属航空会社に時間をとられてしまいましたが、男らしく、聖徒として奉仕活動に励んで生きます。よろしくお願ひいたします。

池田 千里 (男・70代)
元寺小路教会

「私の洗礼名」
みちのく仙台に万葉(まんた)の桜がそよぐ春の日、私は入門講座の仲間をはじめ、多くのみなさんとともに、祝福されて神の子の兄弟とさせていただくことができました。私の洗礼名は、誕生日が十二使徒の一人、聖アンデレ(ギリシヤ語やドイツ語ではアンドレアス)の祝日なので、まったく迷うことなく

「牛にひかれて善光寺参り」
「人は罪人である」子供心に「私は何も悪いことをしていないよ」と反発を感じたのがキリスト教に対するはじめての印象でした。それ以来「神仏は敬えどもたよらず」を信条として生きてきた気がします。退職後、家族の事情で仙台を離れていましたが、それも一段落したので昨年帰って来ました。以前から聖書研究会に参加していた妻が、入門講座に出るとのこと、私もつられてついて行きました。長谷川先生の講座です。懇切丁寧な解説で「罪人」のトラウマから解放され、わが身の不徳、無知を反省させられた毎日でした。霊名も講義の中で出会いました。これからの考え、行いが主のみ旨にそえるよう心していきたいと願っています。

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

ヨセフを選んだ理由は、ドイツでパイロット試験を受けるに当たり、パイロットの恩師であるヨセフ・パウワーの言葉がいつも心にのこっていたことがありヨセフの霊名にいたしました。

自動車事故の後、築館教会をたずね、横島神父さんの勉強会と、土井神父さんの講習などを経て、自分が常に成長するために入信を決意しました。大変感謝しています。どこでも人は成長することが出来るし、困難を乗り越えられるといつも信じ、生きています。ここ一年は、ヨーロッパの所属航空会社に時間をとられてしまいましたが、男らしく、聖徒として奉仕活動に励んで生きます。よろしくお願ひいたします。

池田 千里 (男・70代)
元寺小路教会

「私の洗礼名」
みちのく仙台に万葉(まんた)の桜がそよぐ春の日、私は入門講座の仲間をはじめ、多くのみなさんとともに、祝福されて神の子の兄弟とさせていただくことができました。私の洗礼名は、誕生日が十二使徒の一人、聖アンデレ(ギリシヤ語やドイツ語ではアンドレアス)の祝日なので、まったく迷うことなく

「牛にひかれて善光寺参り」
「人は罪人である」子供心に「私は何も悪いことをしていないよ」と反発を感じたのがキリスト教に対するはじめての印象でした。それ以来「神仏は敬えどもたよらず」を信条として生きてきた気がします。退職後、家族の事情で仙台を離れていましたが、それも一段落したので昨年帰って来ました。以前から聖書研究会に参加していた妻が、入門講座に出るとのこと、私もつられてついて行きました。長谷川先生の講座です。懇切丁寧な解説で「罪人」のトラウマから解放され、わが身の不徳、無知を反省させられた毎日でした。霊名も講義の中で出会いました。これからの考え、行いが主のみ旨にそえるよう心していきたいと願っています。

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

「若草物語」や「大草原の小さな家」の家族の在り方に憧れて、

「洗礼を受けて」

セシリア

佐藤 佳子 (女・70代)

東仙台教会

「鐘(カンパネラ)の音」
復活徹夜祭の洗礼式が厳かに進むカテドラルに、突然鐘が鳴り響き、不思議な感覚に襲われました。こみあげる涙、それは喜びや悲しみで流すものとは違つて心の奥底から湧き上がる

ともいうのでしようか、言葉に表すことは難しいです。畏れながら「神の呼びかけ」「聖霊」と今考えています。(信者の方々が言ってくれましたが)。

さて、受洗の動機の一つに40年前からのシスターたち(オタワ愛徳修道女会)との交流がある

仰に支えられる生活ってこんなに心安らげるものなのか、いつか私もと考えてその時が来たというこ

とです。長谷川先生の入門講座、聖書が身近に感じられるようになりこれからも学ぶ喜びを持ち続けたいと考えています。

フランシスカ

内藤 れい子 (女・60代)

盛岡四ツ家

「洗礼を受けた動機」
今まで生きて自分自身を善しとし、しなかつたことが多々あった。この辺りでリセットして、心を解放し行きたいと願う。洗礼が今までの罪をすべて許し、

は、以下の通りです。

94年5月〜97年3月：大阪教区金剛教会助任司祭

97年4月〜03年11月：大阪教区堺ブロック共同宣教司牧チーム・メンバー

04年1月〜12年12月：淳心会日本管区管区長。(任期後、サブチカル)

日本カトリック司教団が全国的な規模での復興支援活動への呼びかけのお陰で仙台教区との縁が築かれ、今回の関わりに至った次第です。仙台教区の震災後の歩みに入ったばかりですが、聖霊の導きと皆様の優しさを信じて、キリストの後に皆様と共に歩いて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、第4地区を担当する4人司祭の一人として赴任したエドガル

(Edgar) は下の名前が、ガクタン(Gacutan)は名字です。私はフ

イリピン生まれ(1964年9月23日)、フイリピン育ちで、19

90年2月28日、淳心会神学生として日本に来ました。日本での

3年間のインターンシップ(2年間日本語勉強と1年司牧実習)とフイリピンでの最後の一年の神

学勉強を終え、1994年4月23日、フイリピンで司祭叙階を受けました。司祭叙階後の赴任先

ります。

彼女たちは明るく楽天的で、信仰に支えられる生活ってこんなに心安らげるものなのか、いつか私もと考えてその時が来たというこ

とです。長谷川先生の入門講座、聖書が身近に感じられるようになりこれからも学ぶ喜びを持ち続けたいと考えています。

フランシスカ

内藤 れい子 (女・60代)

盛岡四ツ家

新しい人になれる事を知り希望す。

復活徹夜祭に臨み荘厳な儀式にあずかる。私にとつて入門式・志願式・聖週間・洗礼式と見るのも初めての事。神の御前と信徒の皆様を背にして緊張はマックスであった。

洗礼式を終え家族の元にもどると、もうすぐ5歳になる男の孫がニコニコ顔で「ばあーば、おたんじょう日おめでとう」と拍手で祝ってくれた。その言葉にびっくり！「君は洗礼の意味が分かつていたの」。これからは、この小さき人々と共にお祈りして信仰心を深めよう。この小さき人々が私の宣教の第一号になってくれるのかな？

フランシスコ・ザビエル

佐藤 浩吉 (男・50代)

元寺小路教会

「わたしが洗礼を受けるまで」
わたしが聖書に目を通すようになったのは、12年前からです。バプテスト教会の信徒となっていた姉から20数年前に「これ読んで」と頂いたコンパクトサイズの聖書でした。当時、教育分野の仕事上、教育改革を

行い、内外の抵抗で組織は惨憺たる状況に陥り、日々聖書を読んでは穏やかに眠りにつく日々でした。その教育関係で山

口のイエズス会のスペイン人

神父様との出会いが、カトリックとの出会いでもありました。「イエス様のように生きる」を私の目の前で実践してくれました。その後

フランシスコ・ザビエル

フランシスコ・ザビエル

カトリックの印象を深めました。

5年前から、母と二人暮らしになり、母と一緒に洗礼を受けよう

と考えていたところに、東日本大震災がありました。母は体調を崩し、6月に亡くなりました。元寺小路教会の信徒の母のいとこを頼りながら、この度、平賀司教様から洗礼を受けることができました。

洗礼式が近づき、今日まで洗礼名を申し出るように言われたときに、図らずもイエズス会の創始者の洗礼名が浮かんで来たことは驚きでした。

「生きる意味」
一日江戸巡礼に参加して、江戸の殉教者を訪ねた。

2002年、浅草教会に殉教碑を建てたのは、S神父さまとの説明があった。神父さまは、資料をぎっしり詰め込んだリュックを背負って自転車に乗り、東大の歴史編纂所に赴き、鳥越殉教者の信仰を今に伝えられた。

驚いたのは、この鳥越の殉教者と仙台との関係である。その日、殉教するはずだったソテロ神父は、伊達政宗に救出され、仙台に赴いたということだった。

しかし、支倉常長とサンファンパウテスタ号で、月の浦から、訪欧へ出帆したソテロ神父も、その後、再度日本に上陸し殉教した。

そこに神と出会った人びとの生きる意味が証しされた。

「苦しみには意味がある」とアウシュビッツから帰還したフランクルの言葉が響く。司祭司牧の最後の教会で、「善を行って苦しみを受け、それを耐え忍び、神の御心に適った」人びとを示されたS神父さまに、自分は次の世代に何を残すのかという問いをいただいたように思われた。

地球を大事にする会 Sr.佐藤 廣子

ヨハネ

小川口 晏彦 (男・60代)

元寺小路教会

「洗礼を受けて」
恐れ多くも私は洗礼を授かりました。こんな欲にまみれ、罪多き私が受洗するとなれば、ヨルダン川の川底に沈んでもまだ足りないだろうと思っております。そんなある日、知人の紹介である神父様の特別説教を拝聴する機会を得て、神父様ご自身が「罪深い人間」と話され、幾分和む思いがしました。

私をここまで導き下さった幾多の神父様、シスター諸姉、友人・知人諸兄諸姉に、特に私を辛抱強く invite し続けられたマリア・ラファエラに深く感謝を捧げます。

今後は「光」とはなれないまでも、ほんの幽かに明滅する「灯」にでもなればと思っております。

日力連創立40周年沖縄大会

「ゆいまーる」―傷ついた者の痛みを共に―

4月24日〜26日、那覇教区安里教会において日本カトリック女性団体連盟(深堀邦枝会長)の創立40周年大会が開催されました。

大会テーマの「ゆいまーる」は結び合い、助け合うことを表す沖縄のことば。沖縄の基地問題、災害や放射能汚染によって苦しむ人々に寄り添う隣人愛と、女性の使命を考えることを目的に、全国各地より227名が集いました。(あけの星会から指導司祭ラトゥール神父はじめ14名参加)。

大会初日の第40回総会では日力連の方向性と一致を確認、新たな船出となりました。

翌2日目はバスツアーで激戦地



跡の嘉数高台公園、普天間・嘉手

納基地、ヘリコプター墜落現場の沖縄国際大学等を見学した後、シンポジウムへと移行しました。沖縄の砂川正子・伊佐育子さんは基地問題や度重なる米軍の事故、安里を含む新開発地域は今も月に一千発以上の不発弾や遺骨が収集されること。県北ではヘリパットのジャングル訓練場に森や畑が切り開かれ、危険と隣り合わせの現状報告。そして命を生み育てる母親は自分の子どもの命を守り、戦争に行かせることを望まない。共に平和に向かって歩こうと呼びかけられました。福島県原町で司牧の狩浦正義神父は、環境の破壊は人間の破壊となり、神が創られた人が生きるための場が無くなること。いま原発について解釈ではなく認識し記憶していくことが大切。聴くことから分かち合い、共に生きる隣人として存在することの豊かさを話されました。那覇教区の押川壽夫司教は沖縄の空にはハトがふさわしいが、日本の基地の75%が沖縄に在り、基地の中に沖縄がある。重圧と痛みは「構造的差別と無関心」で表されている。貧困・差別の構造的暴力(無関心・無意識)を積極的平和へと変えようと

提言されました。

ここで見たこと、聴いたこと、体感したことを分かち合いながら、次の世代へ伝える役割と責任を感じました。

最終日は加盟団体の活動発表で、佐藤榮子あけの星会長は東日本大震災支援のお礼を述べました。沖縄25周年大会で制定した「4・25いのちの日」の15年の活動のあゆみの報告後、日力連顧問の浜口未男司教は総評で、沖縄での学びを必ずつ家庭生活のなかで知恵を出し合う、女性の使命の大切さを話されました。

日力連副会長 阿部正子(東仙台) 理事 中西榮子(元寺小路)

仙塩地区連合婦人会

「あけの星会」総会

2014年度の年次総会が6月8日(日)午後、元寺小路教会で開催された。



梅雨入りの悪天候であったにもかかわらず84名の参加があり、今年度の活動テーマ「絆―傷ついた人々の痛みを共に―」をはじめ、年間の活動計画案、小教区の分担金増額を含む会計予算案を満場一致で承認し、議事の一切を終了。

引き続き、東日本大震災の被災地支援活動先である南三陸町在住の佐々木アメリカさん(在日フィリピン国籍婦人グループ代表)に罹災体験をお聞きする。あの日から苦難と試練の時を過しておられる方々を忘れず、これから先も一体感を共有し、寄り添って行きたいと思う。

あけの星会会長 佐藤榮子(一本杉)

* 地区割りに期待する *

交流のためには

適切な規模が必要

西仙台教会 上野 隆
私は、今回の地区割りに大いに期待している一人です。司教さまの「小教区のミサを大切にしたい」という意思表示は、私にとってピタッとくるものでした。

今までの仙台中央地区では、合同典礼ばかりが強調されすぎて小教区で行う素朴なミサが軽視されていたように思います。その意味で、司教様の方針は適切であったし、時宜にかなったものでした。

まずは自らが所属している小教区での主日のミサ、それもできるだけ飾りのないいわゆる「素朴な

ミサ」を何よりも尊重する事から、私たちの信仰は始まるものと考えます。

教会間の交流ですが、交流するには適切な規模と場所と時間が必要であると思います。その意味で、今までの県大会は交流するために、規模が大きすぎたと思います。午前中の基調講演、昼食後の合同ミサというのが今までの県大会の一般的なスタイルでしたが、その中で交流できる時間は、昼食中とその後の少しの時間しかありませんでした。ですから「こんには、どうしてですか?」程度の話しかできない訳です。

私が言う交流の中身とは、第1にそれぞれの信仰を分かち合う(もしくは理解しようとする)こと、第2に相手の信仰を尊重すること、第3に他所の教会の信仰の実践を謙虚に聞き自分の小教区に持ち帰ることです。

その意味で、県というレベルは大きすぎたし、仙台中央地区というレベルも大きすぎると思います。今回の地区割りは、交流するために適切な規模に落ち着いていると感じています。なんとか、地区の大会を実のあるものにして開催したいと思います。

* 教区報編集委員会では、地区制についての、「ご意見を募集しています。地区制がスタートして仙台教区が今後より良いものとなるためぜひご意見をお寄せください。」

仙台教区「新しい創造」…第3期の取り組み



「チーム亘理」

ボランティアの情報交換

八木山教会 野田和雄

5月24日亘理教会にて第2回「チーム亘理」の会合が開催された。

「チーム亘理」は亘理・山元地区でボランティア活動をを行うカトリックのグループが情報交換する場で年2回の予定で開かれる。今回の参加は東京教区CTV C・さいたま教区(烏山・那須教会)・仙台教区(仙台サポートセンター・亘理教会・八木山教会)からの合計15名。

それぞれのグループは亘理教会周辺の仮設住宅訪問写真という共通のボランティア活動をしているが、

各自が独自に活動をしていたの

で相互の活動を知らずに1年以上過ぎた。そこで各自の活動予定を確認するためメールの通信網を充実させてきた。今回仮設住宅の環境変化や被災者のニーズの微妙な変化に対し情報交換と協力できる部分の話し合いを行った。

情報交換と今後の課題
仮設住宅統廃合時期14年9月までは旧館(ぎゅうかん)仮設は存続する見通し。
自宅や近隣住宅への転出に伴う今後の課題に対して行政の動向確認。
宮城県災害対策予算配分・荒浜中学校付近の集会場建設等意見交換を行った。

各グループの活動報告
*東京(CTV C)カトリック系学校の仮設訪問。その他ボランティア活動のサポート。
*さいたま教区 烏山教会の藤田神父様を中心となった映画会や各種イベント状況。
*仙台教区仙台サポセン カリタス丁持ち帰り用弁当箱の紹介
*八木山オリーブの会 お花見会、きもの地の服作成状況。

相互協力の打ち合わせ
亘理教会の2階の有効活用と宿泊設備の運営面での意見交換
教会総会で亘理教会2階の利用を承認し、ボランティア活動の宿泊設備として提供。現地の

マンパワー不足の為、フットの出し入れ等は利用者が行い鍵の受け渡しだけとす

最後に小松神父から「チーム亘理」に「ボランティア活動には正確な情報と共有化が必要。また仮設住宅の被災者に寄り添いの心を持つてできる範囲で継続をして欲しい。」との言葉が印象に残った。

訃報

シスター・マリア・アガタ



中島喜多子

1924(大正13)年生

1950年

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会にて初誓願

1956年 終生誓願

2014年5月12日 帰天

89歳。立誓願後64年。

修道奉獻生活のほとんどを、教育者として福島の桜の聖母高校、のち同短期大学で過ごし、高校教員や短

大学長も務めた。その間、修道院長や、修道院会計を

次々と兼務した年も多かったが、献身的に黙々と任務

を果たしていた。学校関係を退職後も、充実した祈り

の中で、寛大に各種の奉仕を静かにこなした。



新刊案内

あなたにとって神とは？
—神は神頼みの神か—

著者 森一弘 発行 女子パウロ会

苦難の中の光か

著者 森一弘 著者 森一弘 著者 森一弘

著者 森一弘 著者 森一弘 著者 森一弘